

スーパーティーチャーによる1人1台端末を活用した 授業公開研修



佐賀県立小城高等学校 真木 昭久 教諭

言語文化 漢文（高校1年生 国語科）

ICT活用のポイント

- 書き下し文をOneNoteに記入することで、グループでの共有ができる。
(操作ミス等が無いように、入力フォームを用意しておくことが大切)
- 解説の時にスライドを使うことで、本文を板書する手間と時間を節約することができる。
- OneNoteを使うことで、画面上でリアルタイムに添削をすることができる。
- 生徒各自の端末には書き下し文を表示して添削し、電子黒板には解説を表示することで、効率的に授業を進められる。

学習の流れ

<本時の目標>

- グループで協力しながら書き下し文、現代語訳を検討し、反語形などの基本的な句法について理解する。

導入

- あいさつ
- 単元の目標について理解する。
- 本文の範読を聞きながら、書き下し文を確認する。

展開

- グループで各自の書き下し文を確認する。
活用ポイント
【書き込み機能】
- 書き下し文の各グループごとの担当割りを確認。
活用ポイント
【表示機能】
- グループごとに、OneNoteの該当ページに書き下し文を記入する。
活用ポイント
【書き込み機能】
- 各自の端末には、OneNoteで記述したグループごとの書き下し文を表示し、電子黒板で解説しながら正解を確認する。
活用ポイント
【共有機能・表示機能】

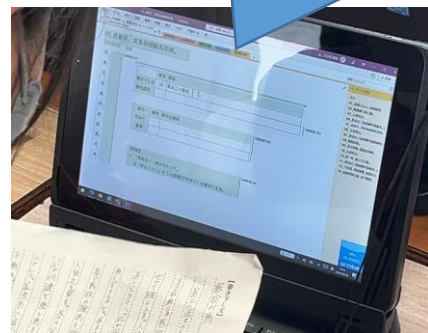
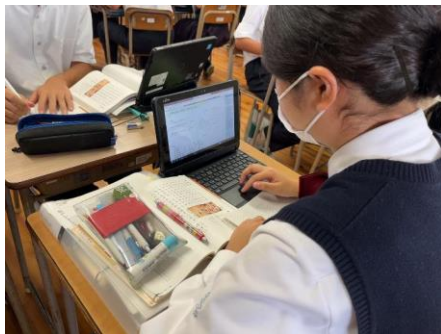
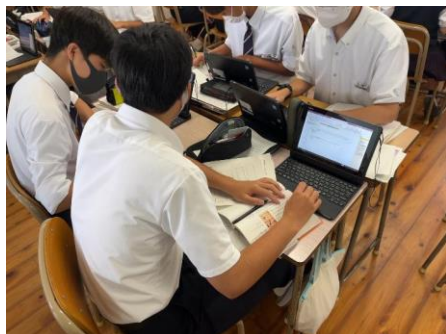
まとめ

- 冒頭の三文を読み、場面や状況を理解する。
- 本時の学習のまとめと次時の学習について確認する。



④各自OneNoteに記入した書き下し文をグループ内で確認する。【書き込み機能】

操作ミスをなくすため、入力フォームが設けられています。



⑤⑥各グループに割り当てられた部分の書き下し文を、OneNoteの該当ページに記入。グループ協働での作業。【表示機能・書き込み機能】



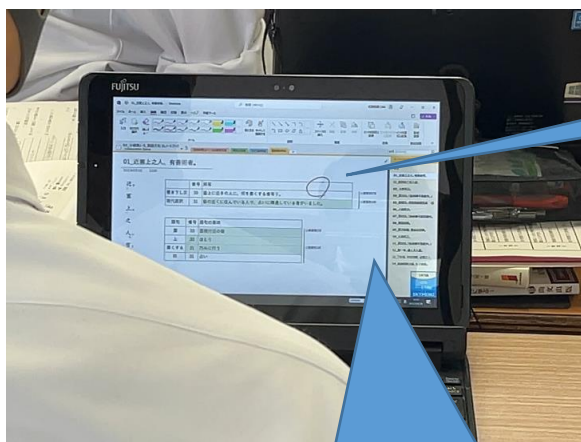
電子黒板でグループごとの担当部分を確認。

わからない漢字は辞書機能で検索。



⑦電子黒板と端末を併用。生徒各自の端末には、OneNoteで記述したグループごとの書き下し文を表示し、電子黒板での解説を参考に正解を確認する。【共有機能・表示機能】

教師からの添削もリアルタイムで表示。



全員の端末に担当したグループの記述を表示して、内容を共有。



解説には電子黒板を使用。

令和4年9月28日に行われた、スーパーティーチャー真木昭久教諭（佐賀県立小城高等学校）の実践です。生徒の入力した書き下し文について、電子黒板で解説しながら、端末で添削を行っていく効率的でわかりやすい授業でした。それぞれの機器の良い点を活かした素晴らしい実践でした。